

AGLコーポレーション

東南アジアに拠点網

ミャンマー現法年内設立

AGLコーポレーションは、南海エクスプレスとの合弁でミャンマーに現地法人を年内に設立する。海外では3拠点目。代理店経由での事業展開だったものを邦人スタッフが常駐する自前の拠点とすることで、サポート機能をきめ細かくするほか、サービスマニエールの拡充も検討する。

同社は日鉄住金物産の子会社で、繊維事業本部の貨物を基盤に物流事業を展開する。中国や東南アジアと日本間の物流、素材を中心とする中国と東南アジアの三国間物流

を手掛ける。物量全体は国内衣料品市場が低迷する中でも維持するものの、本体の繊維事業本部が東南アジアへの生産シフトを推進していることもあり、同地域発の貨物の比率が高まっている状況だ。こうした流れを受けて、この4～5年で拠点の拡充を進めており、南海エクスプレスとの連携でインドネシアとベトナムに現地法人を設立。高柿宣秀社長によると順調に取り扱い物量を増やしているという。

これらに加え、ミャン

マーでの縫製に注力する本体の方針や今後の展望を踏まえ、代理店経由で手掛けてきた同国での事業展開を発展させる形で、3拠点目となる現法設立を決めた。強みを持つ繊維製品の物流実績で、本体を通じて市場動向を把握し、サポート機能を充実させる。同時にミャンマーのヤンゴンからタイのバンコクを経由して日本に送る陸・海送を組み合わせた越境物流サービスの検討も早期に始める考え。

東南アジアの主要な縫製地に拠点ネットワーク

を持つことで繊維物流での強みを高める。

一方、中国での事業展開は競争力強化とスペース確保が今後の課題だ。

生産シフトなどを理由に中国から輸出される物量は全体的に減少傾向にあるが、これを受けて政府が船会社に供給するなど関係を深くして、スペースを確保する。